

## 10月は3R推進月間です

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce>Reuse>Recycleです。

平成26年度

# 長野県循環型社会推進大会



## 開催レポート

『もったいない』を大切に、信州が誇るライフスタイルを！

日時：平成26年10月14日（火） 13:30～16:10（開場13:00）

場所：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）小ホール

### プログラム

#### ●開会（13:30）

・主催者あいさつ（長野県環境部長 山本浩司、信州豊かな環境づくり県民会議会長 鵜飼照喜）

#### ●循環型社会形成推進功労者知事表彰

#### ●事例発表

- 1 アピタ飯田店「環境にやさしいお買い物」
- 2 松本市市民環境部環境政策課「松本市における食品ロス削減の取組みについて」

#### ●講演

演題 地域循環圏の構築めざして  
～協働でつなぐ食品リサイクルの輪～  
講師 ジャーナリスト、環境カウンセラー  
崎田 裕子 氏



#### ●パネル展示 13:00～16:10

- ◇長野県
- ◇信州豊かな環境づくり県民会議

# 開会あいさつ

長野県環境部長 山本浩司

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 鵜飼照喜

## 山本部長



○長野県循環型社会推進大会は、10月の3R推進月間に合わせて実施しており、今年で8回目の開催。

○資源循環型社会を形成するため、暮らしの中にリデュース（減らすこと）・リユース（再使用すること）・リサイクル（再生利用すること）の、「3R（スリーアール）」の理念の浸透を図り、県民、事業者、行政が、廃棄物の発生抑制や再資源化に共に取り組む社会づくりを進める必要がある。

○レジ袋削減に関しては、昨年10月に消費者団体・事業者・行政の3者共同で行った「レ

ジ袋削減協働アピール」に伴い、消費者の目標「マイバッグ持参率80%」、事業者の目標「レジ袋総使用量の前年度比削減」の達成に向けて、県も市町村ともに連携しながら支援していく。

○このほか、食べ残しを減らそう県民運動、食品リサイクルループの構築、リサイクル製品の使用及び環境美化活動等に関しても、県民、事業者、行政が一体となって、真の循環型社会に向けた取組を進める必要があるため、理解と協力を願うとともに、本日の大会が、改めて3Rの必要性や実践方法を認識する機会となることを期待する。

## 鵜飼会長



○信州豊かな環境づくり県民会議は、長野県の美しく豊かな環境を保全し、その恵みを将来の世代に継承していくために、県民・事業者・関係団体・行政等様々な主体の参加と連動により環境美化運動や情報提供活動に取り組んでいる。

○本年度は、新たな取組として「豊かな環境づくり地域活動支援事業」により、県民会議の地域会議の活動支援を行っている。

○循環型社会を形成するためには、県民・事業者・行政が、それぞれの役割を踏まえつつ連携し協力し合って、ごみの減量化を進める

ということに尽きる。

○本日の講演において3Rについて学び、自ら行動し、一層取組を深めてほしい。

○その取組の積み重ねにより、環境への負荷の少ない持続的な社会を作り上げ、次の世代に受け渡すことができるのではないかと考えている。

# 循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者知事表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成26年度は、「事業者の部門」において5名、「個人・グループ・学校の部門」において3名、その他の部門において2名、合計10名の皆様へ知事表彰が授与されました。

(敬称略)

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	株式会社 タツノ 長野支店	長野市	「ながのエコ・サークル」の取組を継続するとともに、ISO14001を取得するなど、環境負荷の低減と省資源化に尽力。「機密文書裁断サービス」により、従来であれば廃棄されていた古紙の再資源化等を図り、廃棄物の適正処理に取り組んでいる。
事業者	中野土建 株式会社	中野市	土木・建築等の総合建設業を主体としつつ、産業廃棄物の収集運搬業にも従事し、エコアクション21を取得するなど関係法令を遵守し適正処理に努めている。施主及び協力会社と共に環境対策に取り組むなど、循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	イー・ステージ 株式会社	小諸市	産業廃棄物の収集運搬及び処分業を営み、多種多様な廃棄物の処理を可能としているほか、ISO14001を取得するなど適正処理に努め、積極的に地域社会の環境美化や要請に応え、循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	株式会社 エコロジカル・サポート	松本市	産業廃棄物の収集運搬業及び処分業を行うとともに、ISO14001を取得し、優良産業廃棄物処理業者に認定されるなど関係法令を遵守し適正処理に努めているほか、地域の環境美化活動等に積極的に参加するなど、循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	アピタ飯田店	飯田市	容器包装リサイクルを積極的に推進しているほか、食品残さのリサイクルで県内初となる再利用事業計画認可を受けるなど、南信地区のユニークグループにおける環境リーダーシップ店舗として、消費者との協働による循環型社会形成に取り組んでいる。
個人・ グループ・ 学校 (グループ)	諏訪地方消費者の会連絡協議会	諏訪管内6市町村	レジ袋削減県民スクラム運動の開始を受けて、店頭啓発等に取り組み、諏訪地域6市町村長とともに「諏訪地域レジ袋削減推進共同宣言」を宣言するなど、諏訪地域の消費者の会が足並みを揃えて、ごみの減量化及び3Rの推進に取り組んでいる。
個人・ グループ・ 学校 (グループ)	飯島町粉石けんを作る会	飯島町	家庭から排出される廃油をリサイクルし、粉石けんを作成、販売、配布に取り組んでいる。粉石けんの認知度が増加することによる町民のリサイクル意識の向上等、循環型社会の形成促進に貢献している。
個人・ グループ・ 学校 (個人)	北原 一男	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
個人・グループ・学校 (個人)	桜井 貞嘉	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。
その他	伊藤 文昭	松本市	長年松本市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理、減量化及び再資源化に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。
その他	大塚 亘	松本市	長年松本市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理、減量化及び再資源化に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。

○山本部長から知事表彰授与



○イーステージ株式会社

代表取締役 鈴木宏信 様 謝辞



○受賞者、鵜飼会長、山本部長で記念写真



# 事例発表

テーマ／環境にやさしいお買い物

発表者／アピタ飯田店 店長 河部 覚 氏



○アピタ飯田店では、地域の環境を守るために、また飯田市全体のごみ削減を目的にお客様と一緒に、またお買い物を通じてごみを出さない社会、リサイクルの社会、二酸化炭素をなるべく出さない社会の実現に向けて活動している。

○4つの取組

①レジ袋の削減活動

・のアピタ飯田店でのマイバッグの持参率、91.2%（2014年）。

- ・2006年ノーレジ袋キャンペーン。ポイントカードによるレジ袋辞退促進
- ・2008年レジ袋の有料化。南信州レジ袋削減推進協議会のメンバーとして、飯伊地区の消費者団体、事業者及び市町村と協力して実施。

②容器包装のリサイクル活動

- ・店頭設置のリサイクルボックスで牛乳パック、アルミ缶、食品トレー、ペットボトル、卵のパック等を回収。
- ・回収した廃棄物がどのように処理されるかが分かるように回収することにより、環境意識の向上を図る。

③食品リサイクルループの構築活動

- ・2012年食品リサイクル法に基づく再生利用事業計画を国に申請し認定された。
- ・生鮮食品の調理くず、食べ残し及び食用油等を処理業者が堆肥化し、できた堆肥を用いて農家が生産した野菜を店舗で販売。
- ・地産地消でトレーサビリティが明確なことによる、食の安心安全の確保。

④環境学習

- ・2011年～子供、小学生を対象に環境学習、エコロお店探検。
- ・「混ぜればごみ、分ければ資源」を子供のうちから意識する環境づくり。

⑤その他の取組

- ・アイドリングストップ、エコ商品開発。
- ・衣料品引取りセール→フェルトに加工し自動車の内装材等に。

特別なことではなく、誰でも参加のできる、誰でもお買い物に来ていただければ実現できる取組。未来の子供たちに美しい自然を残すために活動している。

# 事例発表

テーマ／松本市における食品ロス削減の取組みについて

発表者／松本市市民環境部環境政策課 課長補佐 羽田野 雅司 氏



○松本市はごみ処理を有料化していない。有料化以外のごみの減量化を積極的に進めている。

○松本市の生ごみに占める食品ロスはおよそ3割。

○飲食店での取組

・残さず食べよう！30・10運動 …H23年度～。宴会での食べ残しを減らす取組。宴会の最初の30分と終わりの10分は自分の席に着いて出された料理を楽しむ。

市の宿泊施設で実践したところ、食べ残しが半分程度に減少し、片づけに掛かる時間も短縮された。  
・プラチナメニューの提供 …H26年度～。量より質を重視したメニューを提供する店舗を市の公式ホームページで紹介。

○家庭での取組

- ・園児対象の参加型環境教育 …H24年度～。身近なごみの分別と食べ残し。半分の園児の意識と行動が変化。4割の保護者にも意識と行動の変化が見られるなど、波及効果がある。
- ・家庭版30・10運動 …H26年度～。これまで飲食店で取組んでいたものの家庭版を開始。  
30日＝冷蔵庫クリーンアップデー：期限の近い物や残り物を使って冷蔵庫を空にする。  
10日＝もったいないクッキングデー：これまで捨てていた野菜の茎や皮を使った料理に挑戦する。

○その他の新しい取組

- ・子供向けエコバッグの配布 …ペットボトルを再生したエコバッグを全園児に配布
- ・紙芝居の作成 …松本市の保育士を中心としたプロジェクトチームで作成中。松本市のマスコットキャラクター「アルプちゃん」と国の食品ロス削減国民運動キャラクター「ろすのん」が登場する物語。「アルプちゃん」を他のご当地キャラクターに置き換えることで他の自治体でも使用可能。

大切なのは、一人ひとりが「もったいない」を意識して行動すること。



松本市  
マスコットキャラクター  
「アルプちゃん」

# 講演

テーマ / 地域循環圏の構築めざして ～協働でつなぐ食品リサイクルの輪～

講師 / ジャーナリスト、環境カウンセラー 崎田 裕子(さきた ゆうこ) 氏

## ○プロフィール

立教大学社会学部卒業後、11年間の出版社勤務を経て独立し、フリージャーナリストに。

環境問題、特に「持続可能な社会・循環型社会づくり」を中心テーマに、講演・執筆活動に取り組んでいる。

環境省登録の環境カウンセラーとして環境学習推進に広く関わっているほか、環境省の「中央環境審議会」委員、「政策評価委員会」委員、及び経済産業省の「総合資源エネルギー調査会」委員等、環境分野の公職を多く務めている。



## ○循環型社会構築の必要性

世界のごみの排出量は、アジアを中心に増大している。20世紀後半から日本が経験した高度経済成長、廃棄物処理やリサイクルの取組を伝えることが重要。

## ○循環型社会構築に向けた施策

- ・環境基本法（1993年）
- ・循環型社会形成推進基本法（2000年）  
行政によるごみ処理から企業・消費者の役割を強化
- ・第4次環境基本計画（2012年策定）

持続可能な「低酸素社会」「循環型社会」「自然共生社会」を目指して、いろいろな対策を行っていく。

## ○食品ロス削減とリサイクルの環をつなぐ

・世界の食糧生産量の3分の1、13億トンが食品ロスになっている一方で、飢餓状態の人が8億人いて、大きな問題になっている。

・日本では、家庭系の生ごみの4割が食品ロスと推計されている。賞味期限が過ぎてもすぐに食べられなくなるわけではない。

・食品メーカーができること、卸売業ができること、小売店ができること、外食産業ができること、消費者ができること。自治体が普及啓発のつなぎ手になることが重要。

・消費者が家庭でできること。

期限表示の理解すること、冷蔵庫の中の管理を徹底して買い物に活かすこと、食材を使い切るメニューにすること。

食品リサイクルでできた堆肥や飼料を使用した農産物を、消費者が購入し支えることでリサイクルの環が完結する。

## ○地域循環圏づくりの広がり

・地域と資源の個性を生かしたリサイクルの環づくり。資源、エネルギー、交通、自然環境等を色々な人達が集まって将来ビジョンを作り、共有する

ことにより、地域性豊かで個性的で元気な町づくりの実現を図っていく。



# ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議

- 3R、レジ袋削減県民スクラム運動、食べ残しを減らそう県民運動の展示
- 信州リサイクル製品の紹介及び展示
- マイバッグづくりコンテストの展示及び投票

